

令和 5 年 2 月 22 日

教 育 長 様

研究コース	
S 研究テーマ指定 (A)	
校園コード（代表者校園の市費コード）	
701571	
選定番号	305

代表者 校園名： 大阪市立茨田南小学校
 校園長名： 宇野 多加志
 電 話： 6911-2001
 事務職員名： 奥田 明香里
 申請者 校園名： 大阪市立茨田南小学校
 職名・名前： 校長 宇野 多加志
 電 話： 6911-2001

令和 4 年度 「がんばる先生支援」研究支援 報告書

◇令和 4 年度「がんばる先生支援」研究支援について、次のとおり報告します。

1	研究コース	コース名	S 研究テーマ指定 (A)	研究年数	新規研究（1年目）
2	研究テーマ		I C T を活用した「主体的・対話的で深い学び」の追求		
3	研究目的		本研究を行うにあたって次のことを目的とする。 <input type="radio"/> 主体的な学びの充実 <ul style="list-style-type: none"> ・児童が「学びたい」と意欲をもって取り組むことができる学習単元・学習活動・教材の開発。 <input type="radio"/> 対話的な学びの充実 <ul style="list-style-type: none"> ・対話的な学びのための子ども同士の協働、教職員・地域の方々等との対話を通じ、自己の考えを広げ深めるようにする。 <input type="radio"/> 深い学びの充実 <ul style="list-style-type: none"> ・「見方・考え方」を働きかせて知識を相互に関係づけてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり問題を見出して解決策を考えたりすることができるようになる。 <input type="radio"/> 1人1台端末時代の学びの在り方をさぐる。 <ul style="list-style-type: none"> ・「個別最適化」と「協動的な学び」の在り方について研究を深める。 ・児童・教職員の I C T 活用能力の向上を図る。 		
					いつ、何のために、どのようなことを実施したのかを具体的に記載してください。 (MSゴシック 9.5ポイント)

取り組んだ
研究内容

感染拡大・減少を繰り返しながら徐々に終息に向かいつつあるWHITHコロナの1年間であり、その中の研究活動となつた。新規研究ということであるが、本校ではコロナ禍以前より I C T 機器の授業への活用をテーマに研究を進めており、その中でスタートした新学習指導要領を踏まえながらの研究活動であった。本年度は「I C Tを効果的に活用した[主体的・対話的で深い学び]の追求～教科への活用～」を研究テーマに定め、すべての教科において実践的研究に昨年度に続き取り組んできた。「Teams」を活用したオンライン授業に加え、ロイロノートを活用した授業展開の研究、プログラミングの授業においてのビスケットの活用等すべての校内研究授業において「主体的・対話的で深い学び」の追求を念頭に置きながら「授業展開」「発問の工夫」「効果的な端末の活用」を視点としての研究を継続して行った。11月には和歌山大学の豊田充崇教授を招聘し、それまでの取組の課題と成果について振り返る貴重な機会を得た。

- ①学習スキルの育成：調べ方、発表の仕方、ノートの取り方、グループワークの仕方等における I C T 利用を各学年の発達段階に応じて研究・設定する。
- ②問題解決的な学習プロセスの構成：「話題の提示⇒解決の見通し⇒協働解決⇒全体解決⇒まとめ⇒振り返り」といった問題解決的な学習プロセスを取り入れていった。
- ③1人1台端末体制において「個別最適化」と「協働学習」を実現する授業づくりの工夫について研究・実践に取り組んだ。
- ④学習モデルの活用：「話型・文型・思考ツール」を活用して児童の学びを深めた。
- ⑤I C T 機器等の学習ツールの充実：タブレット端末等の I C T 機器や思考ツールを効果的に活用して児童の意欲を高めた。
- ⑥学習ルールの確立：切り替えのけじめ、集中して学習に取り組む習慣、聞く姿勢やチャイム着席、P C 使用時の約束事などの習慣づくりを行った。

	研究発表等の日程・場所・参加者数	研究発表等を実施した日・場所・参加者数を記載してください。						
5		日程	令和4年11月9日		参加者数 約32名			
		場所	大阪市立茨田南小学校4年教室・多目的室					
	備考	和歌山大学教職大学院 豊田 充崇 教授 の指導を受ける。						
6	成果・課題	<p>大阪市教育振興基本計画に示されている、<u>子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上および教員の資質や指導力の向上</u>について、申請書に記載した検証方法から得られた結果と、それらからの結果に基づいた考察を、具体的に記載してください。</p> <p>【見込まれる成果1】 ICTを活用することで児童の学習意欲が高まる。</p> <p>《検証方法》 学校生活アンケート（児童）で「あなたはタブレットやデジタル教科書を使った学習は楽しいですか」の項目の肯定的回答の割合を85%以上にする。</p> <p>〔検証結果と考察〕 学校生活アンケート（児童）「あなたは、タブレットやデジタル教科書を使った学習は楽しいですか」の項目の肯定的回答は88%であり、目標を上回ることができた。ICTを積極的に活用していくことで児童の学ぶ意欲が高まった。</p> <p>【見込まれる成果2】 ICTを活用することで授業の質が高まり、「わかりやすい」授業を行うことができ、児童の学力が向上する。</p> <p>《検証方法》 学校生活アンケート（児童）の「あなたは、授業がよくわかりますか。」の肯定的回答の割合を80%以上にする。</p> <p>〔検証結果と考察〕 学校生活アンケート（児童）「あなたは授業がよくわかりますか」の項目の肯定的回答の割合は90パーセントになり検証指標を大きく上回った。昨年度の同項目の回答割合は86%であり昨年度の数値も上回ることができた。ICTを活用することで児童の理解が深まり「授業がよくわかる」とする児童が多くなったと考えられる。</p> <p>【見込まれる成果3】 児童の情報活用能力が高まることで児童の自己肯定感が高まる。</p> <p>《検証方法》 学校生活アンケート（児童）「自分には、よいところがある。」の肯定的回答の割合を75%以上にする。</p> <p>〔検証結果と考察〕 学校生活アンケート（児童）「自分にはよいところがある」の項目の肯定的回答の割合は78%になり目標の数値を上回った。今後もさらに自己肯定感を高め、自尊感情を育めるよう、児童一人ひとりに自信をつけさせたり、良さを発信したりする取り組みを授業以外の場面でも行っていきたい。</p>						

	<p>【見込まれる成果4】 「学習ルール」を徹底することで規範意識が高まる。</p> <p>《検証方法》 学校生活アンケート（児童）「学校のきまりを守っていますか」の肯定的な回答を80%以上にする。</p> <p>〔検証結果と考察〕 学校生活アンケート（児童）「学校のきまりを守っていますか」の肯定的な回答は96%となり昨年度を上回った。学習の基盤である学習ルールを守ろうとするようになってきたことで「主体的・対話的で深い学び」の実現に向かうことができた。</p>
6 成果・課題	<p>【見込まれる成果5】 校内研究が活性化し、教職員の授業力が向上する。</p> <p>《検証方法》 教員アンケート「学習に対する児童の興味・関心を高めるためにコンピューター等を使って効果的に教材を提示することができる」に肯定的回答をする教員を80%以上にする。</p> <p>〔検証結果と考察〕 教員アンケート「学習に対する児童の興味・関心を高めるためにコンピューター等を使って効果的に教材を提示することができる」に肯定的に回答をする教員を80%以上にすることができた。ほとんどの教員がデジタル教科書や、ロイロノート等を利用して授業に取り組み、教材研究することで教員のICT活用能力が高まってきたといえる。</p> <p>【研究全体を通した成果と課題】 具体的に記載してください。 教育活動における様々な規制が和らぐ中、積極的に研究に取り組み、研究授業、研究協議、講演会を行うことができた。オンラインでの研究授業やプログラミングの研究授業も行うことができ、様々な成果と課題を得ることができた。</p> <p>(成果) ・ ICT を積極的に活用することで、児童の学習意欲が高まった。 ・ 全校で共通理解して学習ルールがさらに徹底できたので、学校全体として児童の学びに向かう姿勢づくりができた。 ・ ICT を活用することで児童の情報処理能力が高まるとともに授業の質も高まってきた。 ・ 教員の ICT 活用能力は年々高まってきた。研究の幅を全教科に広げたことで教員の指導力も高まった。</p> <p>(課題) 豊田教授から、様々な思考ツールやアイテムの紹介を受け研究授業等で試行錯誤しながら研究に取り組んだが、まだ十分に学年に応じた能力をつけたとはいえない。個々に支援が必要である。1人1台パソコン体制の可能性をさらに探っていき授業づくりの在り方を研究しよう。</p> <p>《代表校園長の総評》 ICT活用について積極的に取り組む研究を行って5年になる。今年度、新規研究ではあるが、数年の研究の積み重ね・試行錯誤を経て、コロナ禍の影響も和らいだ中での研究活動であった。和歌山大学の豊田教授にも数年来指導をいただいており、本校の現状を理解いただいている。校内では年々教職員のICT活用能力も高まってきており、児童がほんとに楽しく学習に取り組もうと意欲的になってきているのが感じられる。また児童のタイピング能力の向上には目を見張るものがある。「主体的・対話的で深い学び」のためのICTアイテム利用やICTを利用しながらの授業での発問の工夫を視点にして、今後も継続して情報活用能力を高める授業研究に取り組んでいき、学校力・授業力の向上に努めていきたい。</p>